

第五回企業活性化研究分科会・議事録

<第五回 2007年10月21日 時間：10：00～12：00 於：専修大学(神田校舎)7号館>

1. 参加者：太田、山本、井端、大野、飯高、渡辺、大柳、横山、星野、小島、森井、古山、菅原、宮川

2. テーマ：継続企業概念に関する論文の検討 No.4

3. 討議内容

3.1 林隆敏著「継続企業の前提に関する注記および追記情報の分析—平成15年3月期決算」について

・報告者：小島康隆

・配布資料：レジュメ両面1枚、計3ページ

・報告内容

本論文に基づき、まず継続企業の前提に関する追記情報と注記についての整理をおこない、林先生とその他の実証分析研究者の比較をおこなった。つぎに、わが国における「リスクアプローチド監査」についての、問題点をあげ、それらの問題点について私見を混ぜながら報告した。

➤ ゴーイング・コンサーンの注記の記載内容について

➤ 継続企業の前提に関する追記情報と注記の違いについて

➤ 林先生の実証分析とその他実証分析について

➤ 林先生の実証分析からは、「注記情報と追記情報と異なるケースもあった」ことについて

➤ リスクアプローチド監査とその問題点について

3.2 永見尊著「ゴーイング・コンサーンに関するリスク情報の開示」について

・報告者：古山徹

・配布資料：レジュメ3枚

・報告内容

本論文の目的である、「リスクをどのように定義し、どのような要因で構成されるのか」という2点を中心に報告を行った。本論文では、リスク情報は、Aリスクの対象となる事象、Bリスク影響要因、Cリスク評価の値の3要因で構成されるとし、これらの要因が備わった、明確なゴーイング・コンサーン問題の開示規定が作成されることが望ましいとしている。

➤ ビジネスリスクの概念とリスク情報の枠組みについて

➤ ゴーイング・コンサーン情報の開示について

3. 3 高田敏文著「ゴーイング・コンサーン監査情報の情報価値」について

- ・ 報告者：森井昭夫
- ・ 配布資料：レジュメ 3 枚 補足資料 1 枚
- ・ 報告内容

本論文に基づき、効率的市場仮説を前提に、会計情報・株価との関連性から、ゴーイング・コンサーン監査情報は、投資家の意思決定」にとって情報価値を有しているのかを検討し報告を行った。結論としては、①GC 追記情報に情報価値がないこと、②投資家が GC 追記情報に情報価値を認めていないこと、③市場が予想していない GC 情報については市場が非効率になっている可能性が高いこと、④GC 追記情報で株価が変化しないということは会計情報に虚偽がないと市場が評価していること、という四点があげられている。

- 市場の効率性と GC 情報について
- 会計情報の関連性について
- 株価との関連性について
- 予測されなかった GC 情報とその株価関連性について

4. その他

研究会終了後に、千葉商科大学経済研究所主催の公開シンポジウムに参加

(文責：菅原智久 宮川宏)